



歴史に輝く女性たち①

青鞥の人 平塚らいてう

(1886~1971)

らいてうの生きた時代、女性には家庭を守り、夫に仕えて子どもを生み育てる「良妻賢母」が理想とされていました。「自分を表現したい」「学びたい」「政治に参加したい」と望む女性たちの叫びは、心に空しくこだまするだけでした。そういう時代の中で、社会を変えて女性を解放したいと、たちあがった女性たちがいました。

1911年、日本で初めて女性だけの文学結社、「青鞥社」を創立し、機関紙「青鞥」を刊行するのです。中心メンバーの一人に25歳のらいてうがいました。まだ活動は浅かったものの、女性解放への志は高く、創立資金を提供して主宰者となり、「青鞥」に創刊の辞を執筆します。締切り前夜、一気に書き上げたというその文面は、らいてうを「新しい女性の出現」と、世に注目させるものでした。

後に「青鞥宣言」と呼ばれた彼女の主張は女性たちの支持と共感をよび、らいてうのもとには多くの手紙が寄せられました。

ここで問題です。次に紹介するのは創刊の辞の冒頭の文章です。[A][B]にあてはまる言葉は何でしょう。

Q

『元始、女性には実に[A]であった。真正の人であった。今、女性には[B]である。他によって生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の[B]である。』

○闇・光・月・太陽・地球・宇宙
(解答は末尾に)

青鞥社は5年後に解散します。らいてうはその3年後の1920年、「新婦人協会」を結成して、婦人参政権獲得の運動に邁進します。戦後は婦人解放運動の指導者として活躍するなど、生涯にわたるらいてうの活動とその実績は、実に太陽のように、近代女性史に輝いているのです。

※青鞥—18世紀イギリスの女性参政権運動の一派「ブルーストッキング」にちなみ、女性解放を主張する女性を指す。

解答 A→太陽 B→月

◇◇ ジェンダー統計 ◇◇ オリンピックと女性

近代オリンピックの初回開催地であるアテネで、108年ぶりにオリンピックが開催されました。初めて日本選手団の女性選手数が男性を上回り、西東京市からは4人出場した選手の内3人が女性でした。

現在では女性の活躍を誰もが受け入れています。近代オリンピック第一回のアテネでは、女性の参加は認められていなかったのです。しかし、108年の間に毎回、各種目で女性部門が新設され、今では女性部門を持たないのはボクシングだけになりました。オリンピックへの女性参加の歴史は、男女平等の歴史を反映しています。

	全参加者数(人)			うち日本(人)			主な女性初参加種目等
	男性	女性	男女比	男性	女性	男女比	
古代ギリシャオリンピック	全員	—	100/0	—	—		女性は観戦も禁止
近代オリンピック							
第1回(アテネ) 1896年	280	—	100/0	—	—		クーベルタン※は女性の参加に消極的。
第2回(パリ) 1900年	1060	12	99/1	—	—		テニス、ゴルフのみ
第5回(ストックホルム)1912年で水泳、第9回(アムステルダム)1928年で陸上、第11回(ベルリン)1936年で体操、フェンシングが認められた。要望の高いマラソンは女子には過酷という理由で認められなかった。							
第23回(ロサンゼルス) 1984年	5230	1567	77/23	178	53	77/23	マラソン
第24回(ソウル) 1988年	6279	2186	74/26	188	71	73/27	10,000メートル
第25回(バルセロナ) 1992年	6659	2186	75/25	181	82	69/31	柔道
第26回(アトランタ) 1996年	6797	3523	66/34	160	150	52/48	サッカー
第27回(シドニー) 2000年	6582	4069	62/38	158	110	59/41	重量挙げ
第28回(アテネ) 2004年	(約11,099)		56/44	141	171	45/55	レスリング

※クーベルタン男爵(1863-1937) 第1回アテネオリンピックの開催者

※日本人が初めて参加したのは、第5回(ストックホルム)1912年 陸上競技(短距離・マラソン)2人

※日本女性が初めて参加したのは、第9回(アムステルダム)1928年 陸上800m2位 人見絹枝1人